

生活に生きる実践力を育てる授業の在り方
ー学んだことを積極的に活用する生徒の育成を通してー

伊藤秀哲 星野めぐみ

1 研究テーマ設定の趣旨

現代の子どもたちには、「知識基盤社会」の時代ともいわれる変化の激しい社会において、その変化に対応しながら日々直面するさまざまな課題を解決していくための「生きる力」が必要とされている。

平成20年3月に告示された学習指導要領においても「生きる力」をはぐくむことが第一の目標となっている。その中で技術・家庭科では、「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術との関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。」ことが目標とされている。また、内容の取り扱いについて、「(1)基礎的・基本的な知識及び技術を習得し、基本的な概念などの理解を深めるとともに、仕事の楽しさや完成の喜びを体得させるよう、実践的・体験的な学習活動を充実すること。」や「(2)生徒が学習した知識及び技術を生活に活用できるよう、問題解決的な学習を充実するとともに、家庭や地域社会との連携を図るようにすること。」とあり、知識及び技術の習得、生活への活用ができるような学習活動をより充実させる必要があることが示されている。

本校技術・家庭科のこれまでの研究においても、子どもの生きる力をはぐくむことを主眼とした研究を継続的に行ってきた。

平成10～13年度の研究では、テーマを「『生きる力』を高める教育課程の編成と実践ー技術・家庭科の特性を生かした必修・選択教科の在り方ー」とした。生きる力＝問題解決能力と考え、「総合的な学習の時間」との関連も視野に入れながら、必修・選択教科の教育課程を編成した。そして、学習指導の手だてを工夫することで問題解決能力の育成を図った。

平成14～16年度の研究では、「確かな学力」を身に付けさせようとテーマを「実践的・体験的学習を通して工夫し創造する能力を育てる学習指導の在り方ー学ぶ楽しさを実感できる授業の工夫ー」とした。本教科における「学ぶ楽しさ」を分析・分類し、指導の手だてのとの関係を明らかにした上で、生徒が「学ぶ楽しさ」を実感し、高い学習意欲を持って課題解決に取り組めるよう、学習指導の工夫・改善を図った。

平成17～19年度の研究では、テーマを「自ら学び・ともに学ぶ力の育成ー実践的な態度を育てる学習指導の工夫ー」とした。学習活動の中でコミュニケーションする力を活用する場を意図的に設定し、学習指導を工夫・改善することで、主体的に活動する力である

「自ら学ぶ力」と客観的に思考・判断する力や協調する態度である「ともに学ぶ力」の育成を図った。

本校の共同研究と以上の学習指導要領改訂の理念や本校本教科のこれまでの研究における取り組みをふまえながら、学習で習得した基礎的・基本的な知識及び技術を次の学習や生活の中で積極的に活用できるような生徒を育成していきたいと考えた。そこで、研究テーマを「生活に生きる実践力を育てる授業の在り方ー学んだことを積極的に活用する生徒の育成を通してー」と設定した。この研究では、学習指導要領における本教科の目標を達成することを第一とし、実践的・体験的な学習及び問題解決的な学習をより充実させ、基礎的・基本的な知識と技術の習得と活用を通して、生活をよりよくするための実践力を育てていきたいと考える。また、学習したことをより積極的に活用できるよう、学習意欲の高揚を図りながら、様々な視点や考え方を持たせたり、活用場面を意識化させたりするなど、学習指導の工夫・改善をしていきたい。さらに授業実践から、本教科における活用型学習活動の事例を提唱すると共に、学習指導要領改訂によって整理・拡充された内容に対応した教育課程を編成をしていきたいと考える。

2 研究計画

- 1 第1年次（平成20年度）
 - (1) 研究の構想と仮説の検討
 - (2) 本教科における活用型学習活動の基本的な考え方の検討
- 2 第2年次（平成21年度）
 - (1) 活用型学習活動を取り入れた授業の実践と評価
 - (2) 新学習指導要領に即した年間指導計画の検討
- 3 第3年次（平成22年度）
 - (1) 活用型学習活動を取り入れた授業の実践と評価を継続
 - (2) 新学習指導要領に即した年間指導計画の編成
 - (3) 研究のまとめ

3 研究内容

1 研究の仮説

本研究では、活用型学習活動の開発・実践することで、実践的・体験的な学習及び問題解決的な学習をより充実させ、授業で学んだことを積極的に活用し、生活をよりよくしようとする実践力を身に付けた生徒を育てるという観点から、研究仮説を次のようにおいた。

活用型学習活動を実践し、学んだことを積極的に活用できるように学習指導の工夫をすることで、生徒の知識及び技術の習得を促進させるとともに、生活に生きる実践力を育てることができるであろう。

生活に生きる実践力とは、本教科の目標にある「進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度」が基盤となるが、活用型学習活動によって身に付けさせることができるであろう質の高い知識・技術や思考力・判断力・表現力等も含めた、生活をよりよくするために必要な総合的な能力と考える。ここでいう生活とは、家庭や学校だけでなく地域社会等、将来にわたって関わっていく生活全般をさす。また、授業で学んだことについては、後の学習活動や生活の中で「どのように生かされているのか」「どのように生かしていけるのか」など、つながりや活用を場を意識させるなどして、より多くの場面でよりよく実践しようとする意欲につながるようにしていきたい。

2 本教科における「活用型学習活動」について

本校の共同研究においては、研究仮説を「教科の学習において活用型学習活動を実践していくことで、教科の知識・技能を効果的に身に付けさせることができ、さらには、思考力・判断力・表現力等の能力も伸長させることができるであろう。」としている。この仮説に至るまでの経緯については総論のとおりである。その中で、中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」（平成20年1月17日）にある、以下のような思考力・判断力・表現力等の育成に関わる活用型の学習活動例を出発点としていること受け、本教科における学習活動についても検証、整理、分類をしていく。

① 体験から感じ取ったことを表現する

（例） ・ 日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する

② 事実を正確に理解し伝達する

（例） ・ 身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する

③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

（例） ・ 需要、供給などの概念で価格の変動をとらえて生産活動や消費活動に生かす
・ 衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する

④ 情報を分析・評価し、論述する

（例） ・ 学習や生活上の課題について、事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考えるための技法を活用し、課題を整理する
・ 文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめて、A4・1枚（1000字程度）といった所与の条件の中で表現する
・ 自然事象や社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり、これらを用いて分かりやすく表現したりする
・ 自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ、分析したことを論述する

⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

（例） ・ 理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする
・ 芸術表現やものづくり等において、構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫・改善する

⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

（例） ・ 予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う
・ 将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる

さらに前述の中央教育審議会の答申では、家庭、技術・家庭科の改善の基本方針として、次のように述べられている。（下線部は本校による）

○ 家庭科、技術・家庭科 については、その課題を踏まえ、実践的・体験的な学習活動を通して、家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業等についての基礎的な理解と技能を養うとともに、それらを活用して課題を解決するために工夫し創造できる能力と実践的な態度の育成を一層重視する観点から、その内容の改善を図る。

その際、他教科等との連携を図り、社会において子どもたちが自立的に生きる基礎を培うことを特に重視する。

(7) 家庭科、技術・家庭科家庭分野については、自己と家庭、家庭と社会とのつながりを重視し、生涯の見通しをもって、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成する視点から、子どもたちの発達の段階を踏まえ、学校段階に応じた体系的な目標や内容に改善を図る。

(4) 技術・家庭科技術分野については、ものづくりを支える能力などを一層高めるとともに、よりよい社会を築くために、技術を適切に評価し活用できる能力と実践的な態度の育成を重視し、目標や内容の改善を図る。

○ 社会の変化に対応し、次のような改善を図る。

(7) 少子高齢化や家庭の機能が十分に果たされていないといった状況に対応し、家族と家庭に関する教育と子育て理解のための体験や高齢者との交流を重視する。

心身ともに健康で安全な食生活のための食育の推進を図るため、食事の役割や栄養・調理に関する内容を一層充実するとともに、社会において主体的に生きる消費者をはぐくむ視点から、消費の在り方及び資源や環境に配慮したライフスタイルの確立を見指す指導を充実する。

(4) 持続可能な社会の構築や勤労観・職業観の育成を目指し、技術と社会・環境とのかかわり、エネルギー、生物に関する内容の改善・充実を図る。また、情報通信ネットワークや製品の安全性に関するトラブルの増加に対応し、安全かつ適切に技術を活用する能力の育成を見指す指導を充実する。

○ 体験から、知識と技術などを獲得し、基本的な概念などの理解を深め、実際に活用する能力と態度を育成するために実践的・体験的な学習活動をより一層重視する。また、知識と技術などを活用して、学習や実際の生活において課題を発見し解決できる能力を育成するために 自ら課題を見いだし解決を図る問題解決的な学習をより一層充実する

○ 家庭・地域社会との連携という視点を踏まえつつ、学校における学習と家庭や社会における実践との結び付きに留意して内容の改善を図る。

以上のような考えを受け、本教科における活用型学習活動の在り方について検討した。

本教科においては、教科の目標達成につながる学習活動として、以前から「実践的・体験的な学習」と「問題解決的な学習」を取り入れている。これらの二つの学習は上述のように、実践的・体験的な学習は「体験から、知識と技術などを獲得し、基本的な概念など

の理解を深め、実際に活用する能力と態度を育成するため」に、問題解決的な学習は「知識と技術などを活用して、学習や実際の生活において課題を発見し解決できる能力を育成するため」に行われている。また、それぞれの学習の中には、前述の①～⑥の活用型の学習活動例に合致するような活動も含まれていると考えられる。

このようなことから活用型学習活動は、実践的・体験的な学習や問題解決的な学習の中で行われている学習活動の一つであると考えられる。そこで今後は、これまで行ってきた実践的・体験的な学習や問題解決的な学習について、活動内容を見直したり、工夫・改善したりすることで、さらなる充実を図り、生徒の知識及び技術の習得を促進させるとともに、生活に活用する実践力を育てていきたいと考える。また、学習の場面に応じて生徒に「自己と家庭、家庭と社会とのつながりは？」「よりよい生活を送るには？」「よりよい社会を築くには？」「学校における学習と家庭や社会における実践との結び付きは？」などの視点を持たせることで、学習したことを生活の中でどのように生かせるのかを考えさせ、実践に結びつくようにしていきたい。

3 実態調査

(1) 実態調査の実施について

平成20年度入学生（1年生）を対象に、中学校入学までの実生活において、本教科の学習内容に関わる活動について、その取り組みの状況を把握するために、アンケート形式で調査した。実生活において「実践・活用したことがある活動」「つながりを意識したことがある活動」について選択させるとともに、自由記述欄には実践・活用していることについて、具体的に記入させた。

(2) 調査の結果と考察

図1、2は、技術分野と家庭分野の内容に関わる活動についての取り組み状況を示したものである。グラフの上側が「実践・活用したことがある活動」で下側が「つながりを意識したことがある活動」である。また表は、実生活において実践や活用をしたことがある活動について、具体的に記述させたものの一部である。

図1によると、実践・活用したことがある活動では、「14 コンピュータの基本操作（マウス、キーボード）」「16 ネットワーク（インターネット）を利用する」などの値が高く、コンピュータの利用機会の多さがうかがえる。また、「23 植物や動物などの適切な育て方について考える」「10 機器の安全な使用、事故の防止につとめる」など、日常生活に関わるような項目では、実践・活用したり、つながりを意識したりしていることがうかがえる。

図2によると、値が高いものは毎日の生活に密着しているものが多く、家族とともに行いやすく、自分も関わることで実践したり、つながりを意識したりしていることがうかがえる。

それぞれの項目について、実生活において実践や活用をしたり、つながりを意識したりしている生徒がいることがうかがえたが、全体としての割合はそれほど高くはない。また、どのような意識で、どの程度の取り組みをしているかについては、十分に把握できていない。よって、今後の研究によって実践意欲の向上を目指すと共に、生徒の変容が見取れるように調査を続けていきたい。

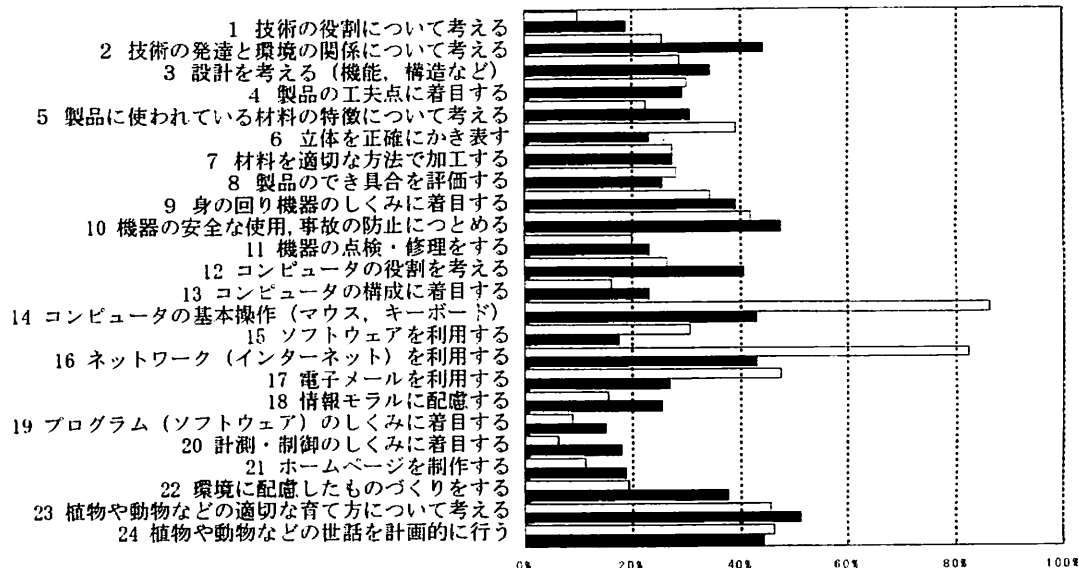


図1 実践・活用したことがある、つながりを意識したことがある活動 (技術分野)

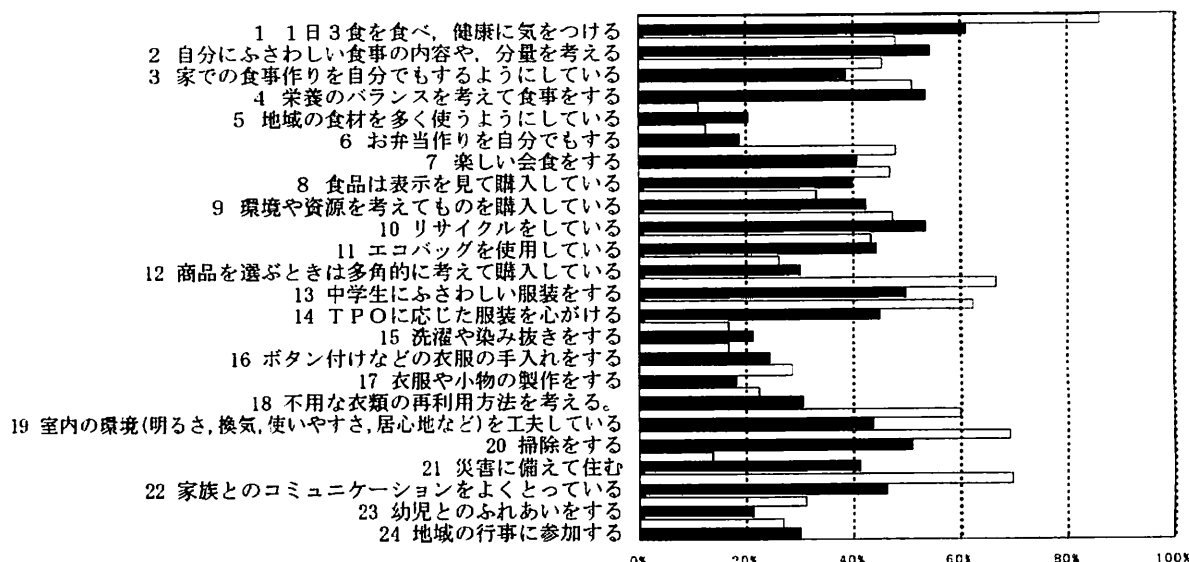


図2 実践・活用したことがある、つながりを意識したことがある活動 (家庭分野)

表 実生活において実践・活用したことがある活動 (一部)

技術分野 (○は複数) <ul style="list-style-type: none"> ・木工細工をするとき、その設計図を正確にかいている。 ・収納のための入れ物を作っている。 ・道具などを使うとき、取扱説明書を読んでからにする。 ・電子機器の安全な使用方法に気をつけている。 ○パソコンで文字入力をしている。 ○インターネットで調べ物をする。 ○友達、家族とメールをする。 ・ブログで情報モラルなどに気をつけている。 ・ホームページの制作で、自分でブログを作ったりしている。 ・余った材料などでものを作る。 ・自分でサニータスを育てていて、育て方などについて、インターネットで調べている。 ○家で飼っているペットの世話を、家族と手分けして行っている。
家庭分野 (○は複数) <ul style="list-style-type: none"> ・1日3食を食べないと気分もすっきりしなかったり、元氣になれなかったりするから活用している。 ・チャーハンやカレーなどを家族のために作る。 ○買い物の時、エコバッグを使う。 ○必ず朝ご飯を食べる。 ○衣服のほつれやボタンの取れたものを補修する。 ・自分の部屋を勉強に集中したり、過ごしやすい環境にするために、片付けをした。 ・お祭りやクリーン作戦などの地域の行事に参加する。 ・小さな子どもと遊ぶ。 ・空き缶・ペットボトルはリサイクルBOXに入れる。 ・夕飯は家族で話をしながら食べるように心がけている。 ・学校で習ったことを家でもやってみた。

4 今後の取り組みについて

活用型学習活動（実践的・体験的な学習，問題解決的な学習など）を開発・実践する際の，今後の具体的な取り組みについて検討した。

（1）実態調査の継続

本教科の学習内容に関わる活動について「活用・実践したことがある」「意識したことがある」などを実態調査した結果から，中学校入学時でも，すでに実践・活用している知識や技能があると，生徒自身は考えていることがわかった。

今後は，題材のまとまりごとに実際の行動についてや考えたことなど，より具体的に把握できるような方法を検討していき，活用型学習活動によって，これまで身に付けていた知識や技能がどのように変容したのか（質的な高まりや深まりがあったか）などをひき続き調査していく。また保護者の協力なども得ながら，生徒の家庭における実践の変容がより客観的かつ具体的に見られるようにしていく予定である。

（2）活用型学習活動の実践

活用型学習活動を実践するにあたり，授業の各場面で，次のような取り組みをしようと考えた。

授業の導入場面では，これまでの学習内容と本時の授業とのつながりを確認することで，課題解決への見通しを持たせ，どんな知識や技術が活用できるのか考えられるようにする。

課題（問題）解決の場面では，これまでに習得している知識や技術に加えて様々な視点や考え方を持たせるために，適宜アドバイスをしたり，提示資料を充実させたりするなどして，生徒の思考や判断が活性化されるような揺さぶりをかける。また，話し合いや実習では，互いに関わり合ったり，協力し合ったりすることで学び合いが促進されるようにする。

検証や評価の場面では，自分の学習への取り組みについて様々な視点を持って振り返らせ，自分自身が身に付けたことなど具体的に記述させることで意識化を図る。また生徒同士の取り組みについても相互評価する機会も取り入れるなどして，多角的かつ客観的に評価できるようにすると共に，意欲の向上を図れるようにする。さらに作品や製品などに生かされている技術をなどにも着目させることで，適切に活用し評価する力の育成も図る。

また，学習内容を整理させる場面では，「どんな知識・技術が高まったか」「どんな視点を持てるようになったか」「生活の中で活用できそうなことは何か」などを具体的なことばで記述させる。これによって，自分では「やっていたつもり」「できていたつもり」の内容について実感させ，「今度やってみよう」「こんな風にもできるかな」などの意欲を持たせるようにする。

さらに，アドバイスなどをする際には，実際の生活や社会とのつながりを意識させられるようにしていきたい。

以上のようなことを授業の中で行っていくことで，学んだことを積極的に活用する生徒の育成をするとともに，生活に生かす実践力の向上を図っていきたいと考える。

4 おわりに

今年度の研究では、新学習指導要領改訂を受けて、本教科における活用型学習活動の基本的な考え方についてと研究仮説の検討を行った。今後は、実態調査や授業実践を積み重ねていき、活用型学習活動の事例集を作成しながら、新学習指導要領に即した教育課程の編成を進めていく予定である。本研究を通して、本教科で学習したことが生活や社会の中で有用な役割を果たしていることを認識し、積極的に学習に取り組んだり、活用したりする生徒がより多くなっていくよう、学習指導の工夫・改善に努めていきたい。

〔参考・引用文献〕

- ・文部科学省：「中学校学習指導要領（平成10年12月）解説―技術・家庭科編―」東京書籍，平成11年9月，平成16年5月，一部補訂
- ・文部科学省：「中学校学習指導要領」平成20年3月
- ・文部科学省：「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」中央教育審議会答申，平成20年1月17日